システム管理設定の管理

この章は、次の項で構成されています。

- 送信メール サーバの設定，2 ページ
- 電子メール テンプレートの使用，3 ページ
- システム パラメータの設定（任意），6 ページ
- オブジェクト検索の実行，8 ページ
- ライセンスの更新，8 ページ
- ライセンスの交換，9 ページ
- ライセンス使用率の確認，9 ページ
- ライセンス使用率履歴の表示，10 ページ
- リソース使用率データの表示，11 ページ
- 非アクティブ ライセンス情報の表示，11 ページ
- アプリケーション カテゴリ，12 ページ
- ポータルのカスタマイズ，14 ページ
- レポートのカスタマイズ，20 ページ
- 詳細な制御の有効化，21 ページ
- サービス プロバイダー機能の有効化，23 ページ
- ユーザ メニュー，23 ページ
- ユーザ権限の設定，24 ページ
- システム タスク，24 ページ
- Cisco UCS Director ユーザ インターフェイスのアイコンの管理，30 ページ
- タグ ライブラリ，34 ページ
- サポート情報，36 ページ

• データベース監査ロギング，40 ページ

送信メール サーバの設定

Cisco UCS Director から送信されるすべての電子メールに SMTP サーバが必要です。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [メール セットアップ（Mail Setup）] をクリックします。

ステップ 3 [電子メール設定] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[送信電子メールサーバ（SMTP）] フィールド	送信 SMTP サーバのアドレス。
[送信 SMTP ポート（Outgoing SMTP Port ）] フィールド	送信 SMTP サーバ ポートの番号。
[送信 SMTP ユーザ（Outgoing SMTP User）] フィールド	ユーザ ID。
[送信 SMTP パスワード（Outgoing SMTP Password）] フィールド	ユーザのパスワード。
[送信電子メール送信者電子メールアドレス（Outgoing Email Sender Email Address）] フィールド	ユーザの電子メール アドレス。
[サーバの IP アドレス（Server IP Address）] フィールド	Cisco UCS Director 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはDNS名。このフィールドは、ユーザのワークフロー処理に対して、電子メールで正しいリンクを作成するために使用します。
[テスト電子メールの送信（Send Test Email）] チェック ボックス	現行の電子メール設定をテストするには、このチェック ボックスをオンにします。

ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。

電子メール テンプレートの使用

Cisco UCS Director には通知メカニズムがあり、VM のプロビジョニングなど、特定のイベントが発生した場合に管理者に送信される電子メールを設定できます。また、すべてのタスクについて承認が必要な場合には、1 人の管理者、またはグループの管理者へ電子メール通知を送信できます。

（注） 電子メールの通知に対して複数の受信者を指定できます。カンマを区切り文字として使用して、複数の電子メール アドレスを区切ります。

Cisco UCS Director には、異なるシナリオに対応する、HTML 形式の電子メール テンプレートのセットがあります。以下は、電子メール テンプレートで実行できるタスクの一部です。

- 新しい電子メール テンプレートの追加
- 既存の電子メールテンプレートの編集：電子メールテンプレートについて、件名とメッセージの詳細、または書式設定とプレゼンテーションのフィールドを編集できます。テンプレート内の Java 関連の情報は変更しないでください。
- 電子メール テンプレートのプレビュー：電子メールの内容をプレビューし、電子メール テンプレートに変更が必要かどうかを確認できます。
- 電子メール テンプレートをデフォルトに設定：デフォルトの電子メール テンプレートに基づいて電子メール通知が送信されるように設定できます。
- 電子メールテンプレートの削除：追加したテンプレートを削除できます。ただし、次のいずれかの条件にあてはまる場合は、テンプレートを削除することはできません。
  - テンプレートを追加してデフォルトのテンプレートに設定した。
  - システムによって提供されたテンプレートである。

電子メール テンプレートの追加

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。
ステップ 2 [システム（System）] ページで [電子メールテンプレート（Email Templates）] をクリックします。
ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。
ステップ 4 [テンプレートの追加（Add Template）] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[電子メール テンプレート名（Email Template Name）] フィールド	電子メール テンプレートの名前。
[テンプレートの説明（Template Description）] フィールド	電子メール テンプレートの説明。
[テンプレートのタイプ（Template Type）] ドロップダウン リスト	追加する電子メールテンプレートのタイプを選択します。このドロップダウン リストには、システムから提供されたテンプレートが表示されます。
[件名（Subject）] フィールド	電子メール テンプレートの件名行。
[デフォルトの件名にリセットします（Reset to Default Subject）] チェック ボックス	このチェック ボックスをオンにすると、入力した件名行が削除され、システムにより提供された件名行が [件名（Subject）] フィールドに読み込まれます。
[本文（Body）] フィールド	電子メールのコンテンツ、フォントのサイズと色、通知トリガーなど、電子メールテンプレートを定義する HTML コード。
[デフォルトの本文にリセットします（Reset to Default Body）] チェック ボックス	このチェック ボックスをオンにすると、システムが提供する電子メールテンプレートで使用されている HTML コードが、[スクリプト（Script）] フィールドに入力されます。 HTML コードが入力された後で、コードに対する変更を維持するには、このチェック ボックスをオフにする必要があります。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

次の作業

さらに変更を加えるかどうかを判断するには、電子メール テンプレートをプレビューで表示します。

電子メール テンプレートのプレビュー

Cisco UCS Director で新しい電子メール テンプレートを作成すると、電子メール コンテンツのプレビューを表示して、さらに変更が必要かどうかを判断できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [電子メールテンプレート（Email Templates）] をクリックします。

ステップ 3 電子メールテンプレートタイプを含むフォルダを展開し、プレビューする電子メールテンプレートを含む行をクリックします。

ステップ 4 [テンプレートのプレビュー（Preview Template）] をクリックします。

ステップ 5 [レポートの開始（Launch Report）] 画面で、[送信（Submit）] をクリックします。

（注） 電子メール テンプレートのプレビュー モードでは、静的な情報だけが表示されます。顧客名などの動的な情報やリソースは表示されません。

次の作業

必要に応じて、電子メール テンプレートに戻ってさらに変更を加えることができます。

デフォルトの電子メール テンプレートの設定

通常は、システムテンプレートがデフォルトの電子メールテンプレートに設定されています。特定のシナリオで複数のテンプレートを追加した場合は、いずれかのテンプレートをデフォルトのテンプレートとして選択できます。デフォルトとしてテンプレートを設定すると、選択したテンプレートが通知に使用されることを意味します。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [電子メールテンプレート（Email Templates）] をクリックします。

ステップ 3 電子メールテンプレートタイプを含むフォルダを展開し、デフォルトとして設定する電子メールテンプレートを含む行をクリックします。

ステップ 4 [デフォルトの電子メール テンプレートとして設定（Set As Default Email Template）] をクリックします。

システム パラメータの設定（任意）

システム パラメータの設定

システム パラメータを編集する必要があるのは、デフォルト値を変更する必要がある場合だけです。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [システム パラメータ（System Parameters）] をクリックします。

ステップ 3 [システム（System）] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[削除したVMのデータを保持する日数（Number of Days to Keep Deleted VMs Data）] フィールド	ユーザが定義した、システムでVMデータを保持する日数。
[イベントを保持する日数（Number of Days to Keep Events）] フィールド	ユーザが定義した、システムですべてのイベントを保持する日数。 （注） 指定した期間を超えたイベントは削除されます。
[傾向データを保持する日数（Number of Days to Keep Trend Data）] フィールド	ユーザが定義した、システムでインベントリの傾向データまたは履歴データ（CPU、ストレージ、メモリ使用状況など）を保持する日数。 （注） このデータはレポートに使用されます。
[計測データを保持する日数（Number of Days to Keep Metering Data）] ドロップダウン リスト	ユーザが定義した、システムでVM計測レコードを保持する日数。 （注） このデータは、VMとリソースに固有です。
[URLからのVMロックコントロールのダウンロード（Download VM Locking Controls from URL）] フィールド	Cisco UCS Director稼働状態でシステムからアクセスでき、サーバ上でホストされたコントロール ファイルをロックする VM の URL （注） このファイルはXML形式である必要があります。コントロール ファイルをロックするこの VM の作成の詳細については、Cisco UCS Director でのVM のロックを参照してください。

名前	説明
[通貨（Currency）] ドロップダウン リスト	使用する通貨の種類を選択します。 使用可能な通貨は、[US]、[EURO]、[GBP]、[KRW]、[CAD]、[CHF]、[CLP]、[NR]、[JPY]、[AUD]、[NZD]、[SGD]、[HKD]、[MYR]、[MXN]、[BRL]、[AED]、[DKK]、[SEK]、[KWD]、[CYN]、[RUB]、[ZAR]、および [その他（Other）] です。
[通貨（Currency）] フィールド	通貨の名前（1 つのみ）を入力します。 （注） このフィールドは、通貨として [その他（Other）] が選択されている場合に表示されます。
[通貨の精度（Currency Precision）] ドロップダウン リスト	通貨の小数点以下の精度を選択します。使用可能な小数点以下の精度は 0 から 5 です。
[資金残高確認間隔（分）（Funds Availability Check Interval (mins)）] ドロップダウン リスト	資金の残高を確認する間隔を選択します。

ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。

インフラストラクチャ システム パラメータの設定（任意）

仮想および物理システムインフラストラクチャ リソースのポーリングに関するパラメータを設定できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [インフラストラクチャ システム パラメータ（Infrastructure System Parameters）] をクリックします。

ステップ 3 [インフラストラクチャ システム パラメータ（Infrastructure System Parameters）] 画面で、システム インフラストラクチャのトレンド データを保持する日数を入力します。デフォルトは 30 日です。

ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。

オブジェクト検索の実行

オブジェクト検索機能を使用して、ユーザ インターフェイスの次の画面から特定のレポートを検索します。

- 物理
- 仮想
- ワークフロー
- カスタム タスク

手順

ステップ 1 [サイトマップ（Sitemap）] を選択します。

ステップ 2 [サイトマップ（Sitemap）] 画面で、[オブジェクト検索（Object Search）] をクリックします。

ステップ 3 検索を実行する必要があるタブを特定するには、[詳細検索（Advanced Search）] を選択します。[物理（Physical）] 画面と [仮想（Virtual）] 画面で検索可能なオブジェクトを含むすべてのレポートが、[ワークフロー（Workflows）] および [カスタム タスク（Custom Tasks）] を選択するためのオプションとともに表示されます。

デフォルトでは、これらのすべてのオプションがオンになっています。

ステップ 4 検索に含めないタブのチェック ボックスをオフにします。

ステップ 5 [検索（Search）] フィールドには、検索するオブジェクトの 3 文字を入力することを推奨します。検索フィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

ステップ 6 [検索（Search）] アイコンをクリックし、キーボードの Enter を押します。
検索条件に一致するすべてのレポートが表示されます。

ライセンスの更新

製品認証キー（PAK）を使用して、ライセンスを更新することができます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [ライセンス（License）] の順に選択します。

ステップ 2 [ライセンス（License）] ページで [ライセンス キー（License Keys）] をクリックします。

ステップ 3 [ライセンスの更新（Update License）] をクリックします。

[ライセンスの更新（Update License）] 画面が表示されます。

ステップ 4 [ファイルの選択（Select a File）] をクリックして PAK ライセンス ファイルに移動し、ファイルを選択します。

ステップ 5 PAK ライセンス ファイルをアップロードするには、[アップロード（Upload）] をクリックします。

（注） ライセンス ファイルをアップロードしない場合は、チェック ボックスをオンにして、ライセンス テキストをライセンス テキスト フィールドにコピー アンド ペーストします。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
ライセンスが更新されます。

ライセンスの交換

この手順を使用すると、システム内のライセンスを交換することができます。このアクションによって、システム上のその他すべての既存のライセンスが非アクティブになります。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [ライセンス（License）] の順に選択します。

ステップ 2 [ライセンス（License）] ページで [ライセンス キー（License Keys）] をクリックします。

ステップ 3 [ライセンスの交換（Replace License）] を選択します。

ステップ 4 [ファイル（File）] フィールドで、PAK ファイルをドラッグ アンド ドロップするか、または [ファイルの選択（Select a File）] をクリックしてファイルを参照し、選択します。

ステップ 5 （任意） [ライセンス テキストの入力（Enter License Text）] をオンにし、ライセンス テキストをコピーして貼り付けます。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
すべての既存のライセンスが新しいライセンスに交換されます。

ライセンス使用率の確認

[ライセンス使用率（License Utilization）] ページに、使用中のライセンス、および各ライセンスの詳細（ライセンスの期限、使用可能な数、ステータス、コメントなど）が表示されます。ライセンスの監査もこのページから実行できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [ライセンス（License）] の順に選択します。
ステップ 2 [ライセンス（License）] ページで [ライセンス使用状況（License Utilization）] をクリックします。
ステップ 3 検証するライセンスを含む行を選択します。
ステップ 4 （任意）ライセンス監査を実行するには、[ライセンス監査の実行（Run License Audit）] をクリックします。
ステップ 5 [ライセンス監査の実行（Run License Audit）] 画面で、[送信(Submit)] をクリックします。
このプロセスは、実行に数分かかります。

ライセンス使用率履歴の表示

ネットワーク リソースの利用状況を把握するため、ライセンス取得済みネットワーク コントローラ、ストレージ コントローラ、サーバ、サーバおよびデスクトップ VM、およびスモール ポッドとミディアム ポッドの数を時間の経過に伴い追跡できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [ライセンス（License）] の順に選択します。
ステップ 2 [ライセンス（License）] ページで [ライセンス使用状況履歴（License Utilization History）] をクリックします。

次のリソース カテゴリのライセンス使用状況履歴がタイムスタンプとともに表示されます。

- ネットワーク コントローラ
- ストレージ コントローラ
- サーバ
- サーバ VM
- デスクトップ VM
- スモール ポッド
- ミディアム ポッド

リソース使用率データの表示

ご使用の環境でのリソースの使用状況を確認できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [ライセンス（License）] の順に選択します。

ステップ 2 [ライセンス（License）] ページで [リソース使用状況データ（Resource Usage Data）] をクリックします。

使用可能なレポート カテゴリを次に示します。

- Resource Name：Cisco UCS Director に関連付けられている利用可能なリソースの名前。
- Resource Count：利用可能な各リソースの量。

非アクティブ ライセンス情報の表示

非アクティブ ライセンスのリストはユーザ インターフェイスから表示できます。非アクティブ ライセンスに関する次の情報を表示できます。

- PAK ファイル名
- ファイル ID
- ライセンス エントリ
- ライセンス価格
- 有効期限日
- 非アクティブ化された時刻
- ライセンスを非アクティブ化したユーザの名前

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [ライセンス（License）] の順に選択します。

ステップ 2 [ライセンス（License）] ページで [非アクティブ化されたライセンス（Deactivated Licenses）] をクリックします。

ステップ 3 すべての非アクティブ ライセンスに関して表示された情報を確認します。

アプリケーション カテゴリ

「アプリケーション カテゴリ」は、VM のワークロード タイプを定義するためのオプション設定です。アプリーション カテゴリを使用しない場合、Cisco UCS Director はユーザ用にプロビジョニングされたすべての VM を汎用 VM とみなし、CPU 集約型のワークロードを処理するように設定します。デフォルトのアプリケーション カテゴリを使用するか独自のアプリケーション カテゴリを作成するかにかかわらず、アプリケーションのニーズに応じた定義済みワークロードのセットをユーザに提供できます。

アプリケーション カテゴリのワークロード オプションには、次のものがあります。

- CPU 集約型
- ネットワーク I/O 集約型
- ディスク I/O 集約型
- メモリ集約型
- 上記の組み合せ

アプリケーション カテゴリを作成した後、対象とするクラウドアカウントに移動して、作成したアプリケーション カテゴリに vDC ポリシーを割り当てることができます。この割り当てにより、アプリケーションをプロビジョニングできるインフラストラクチャの境界が決まります。また、アプリケーション カテゴリを使用して、アプリケーションのタイプに基づくクラスタを割り当てることもできます。たとえば、クラスタ 1 を Web アプリケーション用に割り当てて、クラスタ 2 をデータベース アプリケーション用に割り当てることができます。

ユーザがアプリケーション カテゴリを選択すると、Cisco UCS Director は vDC の割り当てに基づいて、アプリケーションのワークロードのニーズに最適な vDC 境界内の場所を判断します。たとえば、ユーザが CPU 集約型のアプリケーション カテゴリを選択した場合、Cisco UCS Director は、利用可能なインフラストラクチャのうち、CPU 使用率が最も低いインフラストラクチャにアプリケーションをプロビジョニングします。

アプリケーション カテゴリの追加

デフォルトでは、Cisco UCS Director は次のアプリケーション カテゴリを提供します。これらのカテゴリを使用または編集できます。

- 検出された VM
- 汎用 VM
- Web サーバ
- アプリケーション サーバ
- データベース
- アプリケーション - CPU 集約型

- アプリケーション - メモリ集約型
- アプリケーション - ディスク集約型
- アプリケーション -ネットワーク集約型
- その他のアプリケーション 1
- その他のアプリケーション 2
- その他のアプリケーション 3

Cisco UCS Director では、複数の仮想データセンターのアプリケーション カテゴリをシステム レベルで作成できます。この機能により、個別の仮想データセンターを選択してカテゴリにポリシーを割り当てるという反復的な作業が不要になります。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [アプリケーション カテゴリ（Application Categories）] をクリックします。

ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 [カテゴリの追加（Add Category）] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[カテゴリラベル（Category Label）] フィールド	カテゴリの固有名。
[カテゴリコード（Category Code）] フィールド	カテゴリのコードを指定します。このコードは、VM またはホスト名のテンプレートで使用できます。
[カテゴリの説明（Category Description）] フィールド	ポリシーの説明。
[有効になっているカテゴリ（Category Enabled）] チェック ボックス	カテゴリを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。カテゴリを有効にすると、VDC の割り当て時にそのカテゴリを選択できます。 このチェック ボックスをオンにしていない場合、そのカテゴリはシステムで使用できません。
[デフォルトのスマート割り当てアルゴリズム（Default Smart Allocation Algorithm）] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニングで適用する必要がある、デフォルトのアルゴリズムを選択します。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。
アプリケーション カテゴリは、仮想データセンターの [カテゴリの管理（Manage Categories）] オプションをクリックすると表示されます。

次の作業

アプリケーション カテゴリを作成した後、次の作業を実行できます。

- アプリケーション カテゴリを編集または複製します。
- 複数の仮想データセンターへのアプリケーション カテゴリを割り当てます。詳細については、仮想データセンターのアプリケーション カテゴリの管理を参照してください。

ポータルのカスタマイズ

組織はエンドユーザ ポータルをカスタマイズですることができます。ブランディングおよびユーザインターフェイス関連の変更に対して、ロゴ、ログインページ、ホームページなどをカスタマイズできます。

ログイン ページと背景イメージのカスタマイズ

カスタム イメージをアップロードして、ログイン ページと背景イメージを変更できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザインターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。
ステップ 2 [ユーザインターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [ログイン ページ（Login Page）] をクリックします。
ステップ 3 [カスタマイズ可能なログイン ページの使用（Use customizable Login page）] をオンにします。
ステップ 4 [ロゴ イメージ（Logo Images）] セクションで [追加（Add）] をクリックし、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージ ラベル（Image Label）] フィールド	イメージの名前。
[説明（Description）] フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択（Select a file for upload）] フィールド	イメージ ファイルを検索して選択するには、[参照（Browse）] をクリックします。 **重要** 最適なイメージは、幅 200 ピクセル、高さ 100 ピクセルの PNG 形式です。

フィールド	説明
[アップロード（Upload）] オプション	イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。 このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。
[送信（Submit）] オプション	イメージのアップロード後、[送信（Submit）] をクリックします。

ステップ 5 [背景画像（Background Images）] セクションで項目を選択するか、または [追加（Add）] をクリックして次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージ ラベル（Image Label）] フィールド	イメージの名前。
[説明（Description）] フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択（Select a file for Upload）] フィールド	イメージ ファイルを検索して選択するには、[参照（Browse）] をクリックします。 **重要** 最適なイメージは、幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセル、余白 255 ピクセルです。また、イメージは PNG 形式である必要があります。
[アップロード（Upload）] オプション	イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。 このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

アプリケーション ロゴのカスタマイズ

カスタムイメージをアップロードしてホームページのアプリケーション ロゴをカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。

ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [アプリケーション ロゴ（Application Logo）] をクリックします。

ステップ 3 [イメージ（Images）] セクションで、[追加（Add）] をクリックしてリストされていない新規イメージを追加し、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージ ラベル（Image Label）] フィールド	イメージの名前。
[説明（Description）] フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択（Select a file for upload）] フィールド	イメージ ファイルを検索して選択するには、[参照（Browse）] をクリックします。 **重要** サポートされるイメージの形式は、PNG、JPG、およびGIF です。最適なイメージ サイズは幅 100 ピクセル、高さは 50 ピクセルです。
[アップロード（Upload）] オプション	イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。 このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

ファビコンのカスタマイズ

ページがブックマークされている場合に、ブラウザのアドレス バーやそのページ名の横に表示されるお気に入りアイコン（ファビコン）をカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。

ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [ファビコン（Favicon）] をクリックします。

ステップ 3 [イメージ（Image）]セクションで、[追加（Add）]をクリックしてリストされていない新規イメージを追加し、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージ ラベル（Image Label）] フィールド	イメージの名前。
[説明（Description）] フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択（Select a file for upload）] フィールド	イメージ ファイルを検索して選択するには、[参照（Browse）] をクリックします。 **重要** サポートされるイメージの形式は PNG です。最適なイメージ サイズは 16 X 16 ピクセルです。
[アップロード（Upload）] オプション	イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。 このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

アプリケーション ヘッダーのカスタマイズ

顧客ロゴの横の エンド ユーザ ポータル ラベルをカスタマイズするには、既存のラベルを変更します。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。

ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [アプリケーション ヘッダー（Application Header）] をクリックします。

ステップ 3 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ヘッダー全体の非表示（Hide Entire Header）] チェック ボックス	ヘッダーセクションを非表示にする場合にオンにします。オンにすると、ロゴイメージ、アプリケーション名、リンク（[ログアウト（Logout）] など）を含むヘッダーが非表示になります。
[製品名（Product Name）] フィールド	ヘッダーに表示する必要のある製品名。
[製品名の 2 行目（Product Name 2nd Line）] フィールド	製品の 2 番目の名前。
[バージョン情報] ダイアログの有効化（Enable About Dialog）] チェック ボックス	ヘッダーで [バージョン情報（About）] リンクを有効にする場合にオンにします。ヘッダーで [バージョン情報（About）] リンクを無効にする場合はオフにします。
管理者ポータル	
[カスタム リンク 1 のラベル（Custom Link 1 Label）] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク 1 のラベル。
[カスタム リンク 1 の URL（Custom Link 1 URL）] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク 1 の URL。
[カスタム リンク 2 のラベル（Custom Link 2 Label）] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク 2 のラベル。
[カスタム リンク 2 の URL（Custom Link 2 URL）] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク 2 の URL。
エンド ユーザ ポータル	
[カスタム リンク 1 のラベル（Custom Link 1 Label）] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク ラベル 1。
[カスタム リンク 1 の URL（Custom Link 1 URL）] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク URL 1。
[カスタム リンク 2 のラベル（Custom Link 2 Label）] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク ラベル 2。
[カスタム リンク 2 の URL（Custom Link 2 URL）] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク URL 2。

ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。

日付表示のカスタマイズ

さまざまな日付表示の形式がサポートされています。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。
ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [データ表示（Date Display）] をクリックします。
ステップ 3 日付形式を編集します。
ステップ 4 必要に応じて、[タイムゾーンの非表示（Hide Timezone）] をオンにし、タイム ゾーンがユーザ インターフェイスに表示されないようにします。
ステップ 5 [保存（Save）] をクリックします。

カラー テーマのカスタマイズ

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。
ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [カラー テーマ（Color Theme）] をクリックします。
ステップ 3 ドロップダウン リストから使用可能なテーマ スタイルを選択します。
ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。

ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザインターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。
ステップ 2 [ユーザインターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [ログアウトリダイレクト（Logout Redirect）] をクリックします。
ステップ 3 [ログアウト リダイレクト（Logout Redirect）] フィールドに URL を入力します。
ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。

レポートのカスタマイズ

レポートのカスタマイズでは、カスタム ラベルを作成したり、使用可能なレポートを非表示にしたりできます。

（注） ユーザおよびグループのレポートをカスタマイズまたは非表示にすることはできません。他のすべてのページではレポート テーブルをカスタマイズすることができます。[アクションありの表形式（Tabular with actions）] として識別されるレポートのみカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザインターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。
ステップ 2 [ユーザインターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [レポートのカスタマイズ（Reports Customization）] をクリックします。
ステップ 3 カスタマイズするレポート含む行をクリックします。
ステップ 4 [編集（Edit）] をクリックします。
ステップ 5 [レポートのカスタマイズ（Customize Report）] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[レポートを非表示（Hide Report）] チェックボックス	レポートを非表示にする場合にオンにします。レポートを表示する場合はオフにします。
[新しいラベル（New Label）] フィールド	レポートの新しいラベル（必要な場合）。

ステップ 6 [保存（Save）] をクリックします。

詳細な制御の有効化

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [高度な制御（Advanced Controls）] をクリックします。

ステップ 3 必要なフィールドをオンにします。

名前	説明
[パフォーマンスモニタリング（Performance Monitoring）] チェック ボックス	仮想インフラストラクチャのモニタリング、物理インフラストラクチャのモニタリング、および外部クラウドのモニタリングを有効にする場合にオンにします。 必要に応じて、このカテゴリのチェック ボックスをすべてオンにします。
[リソース メーター（Resource Metering）] チェック ボックス	VM 測定機能のモニタリングを有効にする場合にオンにします。 **（注）** VM メーター機能が無効になっている場合、チャージバックは作動しません。
[イベントのモニタリング（Event Monitoring）] チェック ボックス	仮想および物理インフラストラクチャのイベントを有効にする場合にオンにします。
[自動サポート（Auto Support）] チェック ボックス	自動サポートを有効にする場合にオンにします。
[ヒート マップ レポート コンピューティング（Heat Map Report Computing）] チェック ボックス	仮想インフラストラクチャのヒート マップ レポートの生成を有効にする場合にオンにします。
[自動評価（Automatic Assessment）] チェック ボックス	仮想評価のレポートを生成する場合にオンにします。

名前	説明
[適応プロビジョニング インデックス（Adaptive Provisioning Indexing）] チェック ボックス	さまざまなホストパラメータについてホストのロードインデックスを有効にし、4 時間ごとに計算する場合にオンにします。 これらのインデックスは、カタログの適応プロビジョニングで使用されます。インデックスの数が小さいと、ホストがプロビジョニング対象として選択される可能性が高くなります。このプロセスは、特定の VDC のコンピューティング ポリシーに従って機能します。
[VDCポリシーに基づいて非アクティブな VM を削除（Delete Inactive VMs Based on VDC Policy）] チェック ボックス	管理者が指定した時間が経過した後、VDC の非アクティブな（電源がオフになっている）VM を有効化して削除する場合にオンにします。これらの非アクティブな VM の削除は、管理者によって定義された VM 管理ポリシーによっても制御されます。非アクティブな VM が削除される前に、電子メールでの通知がユーザに送信されます。 このプロパティは、VM 管理ポリシーの [非アクティブな VM を削除するまでの期間（Delete after inactive VM days）] フィールドに関連付けられます。 （注） デフォルトでは、このプロパティ ボックスはオフになっています。
[システム タスクのリモート実行（System Task Remoting）] チェック ボックス	管理のためにリモート実行を有効にする場合にオンにします。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

サービス プロバイダー機能の有効化

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [サービス プロバイダー機能（Service Provider Feature）] をクリックします。

ステップ 3 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Enable Service Provider Feature (Requires System Restart)（サービス プロバイダー機能の有効化（システムの再起動が必要））] チェック ボックス	Cisco UCS Director でサービス プロバイダーを有効にする場合にオンにします。
[組織名（第 1 レベル）（Organization Name (First Level)）] フィールド	この機能を有効にする親組織の名前。
[組織名（第 2 レベル）（Organization Name (Second Level)）] フィールド	この機能を有効にする子組織の名前。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

ユーザ メニュー

個々のユーザ ロールに応じてカスタマイズしたメニュー操作を有効にすることができます。ユーザがアプリケーション内で表示、アクセスできるメニュー設定は、指定されているユーザの権限および、権限毎に設定されているメニュー操作に基づきます。

ユーザ メニューの設定

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。
ステップ 2 [システム（System）] ページで [ユーザ ロール（User Role）] をクリックします。
ステップ 3 ユーザ メニューを編集するユーザ ロールを含む行をクリックします。
ステップ 4 [編集（Edit）] をクリックします。
ステップ 5 [ユーザ役割の編集（Edit User Role）] 画面で、[次へ（Next）] をクリックします。
ステップ 6 [メニュー設定（Menu Settings）] 画面に、選択したユーザ ロールのメニュー設定を表示できます。
ステップ 7 メニューチェック ボックスをオンまたはオフにして、そのロールにメニューを許可するか、または [デフォルトにリセット（Reset to Defaults）] をオンにします。
ステップ 8 [送信（Submit）] をクリックします。

ユーザ権限の設定

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。
ステップ 2 [システム（System）] ページで [ユーザ ロール（User Role）] をクリックします。
ステップ 3 ユーザの権限を編集するユーザ ロールを含む行をクリックします。
ステップ 4 [編集（Edit）] をクリックします。
ステップ 5 [ユーザ役割の編集（Edit User Role）] 画面で、[次へ（Next）] をクリックします。
ステップ 6 [ユーザの権限（User Permissions）] 画面で、選択したユーザ ロールの読み取り/書き込み操作を確認できます。
ステップ 7 チェック ボックスをオンまたはオフにして個々のロールに読み取り操作と書き込み操作を許可するか、または [デフォルトにリセット（Reset to Defaults）] をオンにします。
ステップ 8 [送信（Submit）] をクリックします。

システム タスク

[システムのタスク（System Tasks）] 画面には、現在 Cisco UCS Director で利用可能なすべてのシステム タスクが表示されます。ただし、このシステム タスクのリストは、Cisco UCS Director で

作成したアカウントのタイプにリンクされています。たとえば、初めてログインした場合は、一連の汎用システム関連のタスクまたはVMware関連タスクだけがこのページに表示されます。ラック アカウントやCisco UCS Managerアカウントなどのアカウントを追加した際に、これらのアカウントに関連するシステム タスクがこのページに読み込まれます。

以下は、[システムのタスク（System Tasks）] 画面から完了できるタスクです。

- 使用可能なシステム タスクの参照：[展開（Expand）] および [折りたたむ（Collapse）] オプションを使用して、このページで使用可能なすべてのシステム タスクを表示できます。タスクはCisco UCS Directorで使用可能なアカウントに従って分類されます。例：Cisco UCS タスク、NetApp タスクなど。
- システム タスクの無効化と有効化：アプライアンスで実行しているプロセスまたはタスクが複数ある状況において、システム タスクの無効化を選択することができます。無効にすると、手動で有効にするまで、システム タスクは実行されません。これは他のレポートに入力されるデータに影響します。たとえば、インベントリ収集のシステム タスクを無効にすると、このデータが必要なレポートに正確なデータが表示されない場合があります。この場合、インベントリ収集プロセスを手動で実行するか、システム タスクを有効にする必要があります。

  詳細については、システム タスクの有効化または無効化，（30 ページ）を参照してください。

サーバが 1 台しかない Single-Node 設定では、すべてのシステム タスクがこのサーバで実行されます。複数のサーバが設定されている Multi-Node 設定では、デフォルトですべてのシステム タスクがプライマリ サーバで実行されます。ただし、セカンダリ サーバで実行するシステム タスクを指定できます。次に示すのは、このタスクを実行する推奨手順です。

1. セカンダリ サーバがノードとしてCisco UCS Directorで使用できることを確認します。サーバが使用できない場合、サーバをノードとして追加する必要があります。サービス ノードの作成，（27 ページ）を参照してください。
2. 使用可能なサーバからノード プールを作成します。ノード プールの作成，（26 ページ）を参照してください。
3. システム タスク ポリシーを作成し、ノード ポリシーと関連付けます。システム タスク ポリシーの作成，（26 ページ）を参照してください。
4. ノードプールをシステム タスク ポリシーと関連付けます。システム タスク ポリシーへのノード プールの割り当て，（27 ページ）を参照してください。
5. システム タスクを選択し、システム タスク ポリシーと関連付けます。システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て，（29 ページ）を参照してください。

ノード プールの作成

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。
ステップ 2 [システム（System）] ページで [サービス ノード（Service Nodes）] をクリックします。
ステップ 3 [サービス ノード プール（Service Node Pool）] をクリックします。
ステップ 4 [サービス ノード プール（Service Node Pool）] 画面で、[追加（Add）] をクリックします。
ステップ 5 [サービス ノード プールにエントリを追加（Add Entry to Service Node Pools）] 画面で、[名前（Name）] フィールドにノード プール名を入力します。
ステップ 6 （任意）[説明（Description）] フィールドに、ノード プール名の説明を入力します。
ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。ノード プールが作成されます。

システム タスク ポリシーの作成

管理者は、いくつかのポリシーの結合、システム タスク ポリシーの作成をデフォルトのシステム タスク ポリシーに加えて、選択することができます。複数のシステム タスクを 1 つのシステム タスク ポリシーとしてグループ化して、どのシステム タスクがどのノードで実行されるかを後で決定できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。
ステップ 2 [システム（System）] ページで [システム タスク ポリシー（System Task Policy）] をクリックします。
ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。
ステップ 4 [追加（Add）] 画面で、システム タスク ポリシーに指定した名前を [名前（Name）] フィールドに入力します。
ステップ 5 （任意） [説明（Description）] フィールドに、システム タスク ポリシーの説明を入力します。
ステップ 6 [ノード プール（Node Pool）] ドロップダウン リストから、このシステム タスク ポリシーが属するノード プールを選択します。
ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。
選択したノード プールは、新しく作成されたシステム タスク ポリシーに属するようになりました。

システム タスク ポリシーへのノード プールの割り当て

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [システム タスク ポリシー（System Task Policy）] をクリックします。

ステップ 3 ノード プールを割り当てるシステム タスク ポリシーを含む行をクリックします。

ステップ 4 [編集（Edit）] をクリックします。

（注） デフォルトのシステム タスク ポリシーが使用されている場合、このポリシーにサービス ノードを割り当てることができます。デフォルトとは異なるポリシーを設定する場合は、システム タスク ポリシーの作成, （26 ページ）を参照してください。

ステップ 5 [ノード プール（Node Pool）] ドロップダウン リストから、システム タスク ポリシーに割り当てるノード プールを選択します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
選択したノード プールは、このシステム タスクのポリシーに属することになります。

サービス ノードの作成

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [サービス ノード（Service Nodes）] をクリックします。

ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 [サービス ノード（Service Node）] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ノード名（Node Name）] フィールド	サービス ノードの名前。
[ロール（Role）] フィールド	このフィールドは編集できません。デフォルトでは、このフィールドには、[サービス（Service）] をこのノードのロールとして表示します。
[サービス ノード プール（Service Node Pool）] ドロップダウン リスト	デフォルトでは、[デフォルト サービス ノード プール（default-service-node-pool）] タブが表示されます。

名前	説明
[DNS 名（DNS Name）] フィールド	サービス ノードの DNS 名または IP アドレスを入力します。 （注） このフィールドには、プライマリ ノードの IP アドレスは使用できません。有効なサービス ノード DNS 名または IP アドレスが入力されていることを確認します。
[説明（Description）] フィールド	サービス ノードの説明。
[プロトコル（Protocol）] ドロップダウン リスト	[http]（デフォルト）または [https] を選択します。
[ポート（Port）] フィールド	Hypertext Transfer Protocol（HTTP）のデフォルトの TCP ポートは、デフォルトでは 80 が入力されます。必要に応じて異なる TCP ポートを入力します。
[ユーザ名（UserName）] フィールド	デフォルトでは、ユーザ名 infraUser が入力されます。 infraUser は、デフォルトで作成されるユーザ アカウントです。メニュー バーからこのユーザ アカウントを検索するには、[管理（Administration）]>[ユーザとグループ（Users and Groups）] を選択します。 [ログイン ユーザ（Login Users）] をクリックし、[ログイン名（Login Name）] 列で infraUser ユーザ アカウントを見つけます。 （注） InfraUser ユーザ名はシステム自体にログインするデフォルトの管理者ユーザではありません。 別のユーザ名をこのフィールドに追加できます。サービス ノードでの認証に、このユーザの API キーが使用されます。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [システム タスク（System Tasks）] をクリックします。

ステップ 3 システム タスクが含まれているフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。

（注） 128 のシステム タスクが使用可能です。

ステップ 4 タスクを選択し、[タスクの管理（Manage Task）] をクリックします。
[タスクの管理（Manage Task）] 画面が表示されます。

ステップ 5 [タスク実行（Task Execution）] ドロップダウン リストから [有効化（Enable）] を選択します。

ステップ 6 [システムタスクポリシー（System Task Policy）] ドロップダウン リストからシステム ポリシーを選択します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。
選択したシステム ポリシーにシステム タスクが割り当てられます。

システム タスクの実行

Cisco UCS Director では、サービス ノードでリモートで実行できないシステム タスクが含まれます。システム ポリシーは、ローカル ホストまたはプライマリ ノードからリモートで割り当てることもできます。

また、特定のシステム タスクを検索および選択でき、システムですぐに実行します。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [システム タスク（System Tasks）] をクリックします。

ステップ 3 リストからタスクを選択します。

ステップ 4 [今すぐ実行（Run Now）] をクリックします。
システム タスクを実行した結果がユーザ インターフェイスに更新されます。

システム タスクの有効化または無効化

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [システム（System）] を選択します。

ステップ 2 [システム（System）] ページで [システム タスク（System Tasks）] をクリックします。

ステップ 3 1 つ以上のシステム タスクを含むフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。

（注） 128 のシステム タスクが使用可能です。

ステップ 4 タスクを選択し、[タスクの管理（Manage Task）] をクリックします。
[タスクの管理（Manage Task）] 画面が表示されます。

ステップ 5 システム タスクを無効にするには、[タスクの実行（Task Execution）] ドロップダウン リストから [無効（Disable）] を選択します。

ステップ 6 システム タスクを有効にするには、[タスクの実行（Task Execution）] ドロップダウン リストから [有効（Enable）] を選択します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

Cisco UCS Director ユーザ インターフェイスのアイコンの管理

Cisco UCS Director は、カタログ アイコン、アクション関連のアイコン、およびステータス関連のアイコンのカスタマイズと管理をサポートします。システムに設定された各アイコンには、デフォルトで利用可能ないくつかのイメージが含まれています。カタログ、アクション、またはステータスのいずれかに表示されるアイコンを変更できます。新しいイメージをアップロードしてアイコンとして設定することができます。または、システムが提供する一連のアイコンから別のアイコンを選択することもできます。

重要

- アイコンをアップロードしているときに、アイコンが .SVG 形式か .PNG 形式のいずれかであることを確認します。.SVG イメージをアップロードする場合、ピクセルの圧縮が次のとおりであることを確認します。
  - アクション アイコンの場合：24 px x 24px
  - テーブル アイコンの場合：16 px x 16px
  - ステータス アイコンの場合：16 px x 16px
  - ヘッダー アイコンの場合：20 px x 20px（警告アイコンを除く）
- アイコン選択後に、システムからログアウトして再度ログインし、新しいアイコンがユーザ インターフェイスに表示されるようにする必要があります。

次に、Cisco UCS Director に事前に設定されているアイコン セットを示します。

- 標準カタログ アイコン セット
- ステータス アイコン セット
- ベア メタル カタログ アイコン セット
- 高度なカタログ アイコン セット
- コンテナ カタログ アイコン セット
- カタログ フォルダ アイコン セット
- アクション アイコン セット

ユーザ インターフェイスのアイコンを変更するだけでなく、デフォルトのアイコンに戻すこともできます。

Cisco UCS Director ユーザ インターフェイスのアイコンの変更

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。

ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [アイコン管理（Icon Management）] をクリックします。

ステップ 3 アイコン セット カテゴリを選択します。
次のいずれかを設定できます。

- 標準カタログ アイコン セット
- ステータス アイコン セット

- ベア メタル カタログ アイコン セット
- 高度なカタログ アイコン セット
- コンテナ カタログ アイコン セット
- カタログ フォルダ アイコン セット
- アクション アイコン セット

ステップ 4 [アイコン イメージ（Icon Images）] をクリックします。

ステップ 5 [アイコン イメージ（Icon Images）] を展開します。

ステップ 6 アイコンのリストからアイコン イメージを選択します。

ステップ 7 [編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 8 [アイコン イメージ エントリの編集（Edit Icon Images Entry）] ページで、次の手順のいずれかを実行します。

a) [既存のアイコンの使用（Use Existing icon）] ドロップダウン リストを使用して、システム内に現在存在するイメージを 1 つ選択します。

b) [ファイル（File）] フィールドにイメージをドラッグするか、または [ファイルを選択（Select a File）] オプションを使用して参照し、イメージを選択することによって、新しいイメージをシステムにアップロードします。

重要 アイコンをアップロードしているときに、アイコンが .SVG 形式か .PNG 形式のいずれかであることを確認します。.SVGイメージをアップロードする場合、ピクセルの圧縮が次のとおりであることを確認します。

- アクション アイコンの場合：24 px x 24px
- テーブル アイコンの場合：16 px x 16px
- ステータス アイコンの場合：16 px x 16px
- ヘッダー アイコンの場合：20 px x 20px（警告アイコンを除く）

ステップ 9 [送信（Submit）] をクリックします。

次の作業

システムからログアウトして再度ログインし、新しいアイコンがユーザ インターフェイスに表示されるようにする必要があります。

アイコンの編集

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。
ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [アイコン管理（Icon Management）] をクリックします。
ステップ 3 編集するアイコンがあるアイコン カテゴリを含む行を選択します。
ステップ 4 [アイコン イメージ（Icon Images）] をクリックします。
ステップ 5 [アイコン イメージの管理（Manage Icon Images）] 画面で、編集するアイコン イメージを選択します。
ステップ 6 [編集（Edit）] をクリックします。
ステップ 7 [アイコン イメージ エントリの編集（Edit Icon Images Entry）] 画面で、[説明（Description）] を編集します。
ステップ 8 [参照（Browse）] をクリックしてイメージを参照し、アップロードする代わりのファイルを選択します。
ステップ 9 [アップロード（Upload）] をクリックします。
ステップ 10 アップロードが終了したら、[送信（Submit）] をクリックします。

アイコンの削除

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。
ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [アイコン管理（Icon Management）] をクリックします。
ステップ 3 削除するアイコンがあるアイコン カテゴリを含む行を選択します。
ステップ 4 [アイコン イメージ（Icon Images）] をクリックします。
ステップ 5 [アイコン イメージの管理（Manage Icon Images）] 画面でアイコンのイメージを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。
ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

アイコンのプレビュー

手順

ステップ 1 [管理（Administration）]>[ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] を選択します。

ステップ 2 [ユーザ インターフェイス設定（User Interface Settings）] ページで [アイコン管理（Icon Management）] をクリックします。

ステップ 3 プレビューするアイコン カテゴリを含む行を選択します。

ステップ 4 [アイコン イメージ（Icon Images）] をクリックします。

ステップ 5 [アイコン イメージの管理（Manage Icon Images）] 画面で、プレビューするアイコン イメージを選択します。

ステップ 6 [情報（Information）] アイコンをクリックしてイメージをプレビューします。

タグ ライブラリ

タグ付けは、オブジェクトにラベルを割り当てるときに行います。管理者は、Cisco UCS Director のリソース グループやユーザ グループなどのオブジェクトにタグ付けするかどうかを決定できます。コンピューティング、ストレージ、ネットワーク、仮想などのカテゴリにタグを割り当てることができます。また、選択したカテゴリのアカウントの特定のタイプにタグを適用することもできます。リソース グループでのタグの適用と削除の方法については、『*Cisco UCS Director APIC Management Guide*』のセクション「*Managing Tags of a Resource Group*」の項を参照してください。

タグが作成されると、定義された適用可能なルールに基づいて、タグがフィルタ処理され、オブジェクト レポートに表示されます。タグは、リソース グループなどのオブジェクトに関連付けることができます。タグに関連付けたリソースのエンティティを表示するには、タグを選択し、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。別の方法として、タグをダブルクリックすることもできます。

（注） リソース エンティティがタグに関連付けられていない場合、テーブルは空になります。

タグの作成

レポート ページで 1 つ以上のオブジェクトに割り当てることができるタグを作成するには、[タグ ライブラリ（Tag Library）] 画面の [作成（Create）] アクションを使用します。

手順

ステップ 1 [ポリシー（Policies）] > [タグ ライブラリ（Tag Library）] を選択します。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [タグの作成（Create Tags）] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前（Name）] フィールド	タグの名前。
[説明（Description）] フィールド	タグの説明。
[タイプ（Type）] ドロップダウン リスト	タグ タイプとして [整数（INTEGER）] または [文字列（STRING）] を選択します。
[可能なタグ値（Possible Tag Values）] フィールド	タグに設定可能な値。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [適用可能なルール（Applicability Rules）] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[エンド ユーザに表示（Visible to End User）] フィールド	Checko は、エンド ユーザに表示されるタグを作成します。

名前	説明
[タグ付け可能なエンティティ（Taggable Entities）] フィールド	タグの適用が必要なエンティティを選択します。 エンティティを追加するには、以下の手順に従ってください。 1 [+] アイコンをクリックします。 2 [カテゴリ（Category）] ドロップダウン リストからカテゴリを選択します。次のいずれかを設定できます。 • [Virtual_Compute] • [Virtual_Storage] • [Virtual_Network] • [Physical_Compute] • [Physical_Storage] • [Physical_Network] • [管理（Administration）] 3 タグ付け可能なエンティティを選択します。 4 [送信（Submit）] をクリックします。 （注） タグは、セットになったタグ付け可能なエンティティに応じてそれぞれのカテゴリの下に表示されます。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

次の作業

作成したタグは、ユーザ インターフェイスのオプションを選択して編集、複製、および削除できます。

サポート情報

Cisco UCS Director サポートは、ライセンス ステータス、データベース テーブル、バージョン、リソース使用状況、ログ、トラブルシューティング用のデバッグ プロセスを含む、基本および高度なシステム情報を提供します。

[サポート情報（Support Information）] ページでは、次の操作を実行できます。

- システム情報の表示（基本）
- システム情報の表示（詳細）
- ログの表示
- すべてのログのダウンロード
- デバッグのロギングを開始および停止
- API のロギングを開始および停止

システム情報の表示

Cisco UCS Director ユーザ インターフェイスからシステム情報にアクセスできます。次のタイプのシステム情報にアクセスできます。

- 基本システム情報
- 詳細システム情報

基本システム情報には次のものがあります。

- ソフトウェアのバージョン
- アップタイム
- サービス ステータス
- システム ライセンス ステータス
- システムの使用状況
- コンピュート アカウント ステータス
- コンピュート サーバ ステータス
- ストレージ アカウント ステータス
- システム カタログ
- ネットワーク デバイスのステータスと
- クラウド ステータス

詳細システム情報は次の情報を含んでいます。

- 基本システム情報
- データベース テーブル サマリー
- 本体設定
- TOP プロセス情報
- プロセッサ、メモリ、ディスク、ログ ファイル、ネットワーク、ログインの情報

- システム タスク ステータス
- クラウド インベントリ
- モニタリング ステータス

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [サポート情報（Support Information）] を選択します。

ステップ 2 [システム情報（System Information）] ドロップダウン リストより、表示したいシステム情報を選択します。

ステップ 3 [送信（Submit）] をクリックします。
[システム情報（System Information）] ページが新しいタブで開き、アプライアンスに関する情報が Cisco UCS Director 表示されます。

ログの表示

Cisco UCS Director システムの次のログを照合します。

- インフラマネージャ
- Web コンテキストクラウドマネージャ
- Tomcat ログ
- オーセンティケータログ
- メール配信ログ
- パッチログ

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [サポート情報（Support Information）] を選択します。

ステップ 2 [システム情報（System Information）] ドロップダウン リストから、[ログを表示（Show Log）] を選択します。

ステップ 3 [ログを表示（Show Log）] ドロップダウン リストから、表示したいログを選択します。

ステップ 4 [ログの表示（Show Logs）] をクリックします。
ログファイルが新しいタブ、またはブラウザウィンドウで開き、使用可能な情報、警告、およびエラー ログが表示されます。

ログのダウンロード

zip ファイルとしてすべてのログ ファイルをダウンロードできます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [サポート情報（Support Information）] を選択します。

ステップ 2 [システム情報（System Information）] ドロップダウン リストから、[すべてのログのダウンロード（Download All Logs）] を選択します。

ステップ 3 [ダウンロード（Download）] をクリックします。

デバッグ ログの開始

デバッグ ログでは、最大で 30 分間のデバッグ ログをログ ファイルに記録できます。

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [サポート情報（Support Information）] を選択します。

ステップ 2 [システム情報（System Information）] ドロップダウン リストから、[デバッグ ログ（Debug Logging）] を選択します。

ステップ 3 [デバッグ ログの開始（Start Debug Logging）] をクリックします。

ステップ 4 記録を停止するには、[デバッグ ログの停止（Stop Debug Logging）] をクリックします。
録音は自動的に 30 分の制限に達すると停止します。

ステップ 5 zip のログファイルをダウンロードするには、*[HH.MM.SS]*（時間）から [デバッグ ログをダウンロード（Download Debug Logs ）] をクリックします。

API ログの生成

手順

ステップ 1 [管理（Administration）] > [サポート情報（Support Information）] を選択します。

ステップ 2 [システム情報（System Information）] ドロップダウン リストから、[API ログ（API Logging）] を選択します。

ステップ 3 [API ログの開始（Start API Logging）] をクリックします。

ステップ 4 目的のテストを実行します。

ステップ 5 記録を停止するには、[API ログの停止（Stop API Logging）] をクリックします。

ステップ 6 zip ファイルをダウンロードするには *[HH.MM.SS]*（時間）から [API デバッグ ログをダウンロード（Download API Debug Logs）]をクリックします。
圧縮（zip）ファイルが生成され、デスクトップにダウンロードされます。この zip ファイルには、タイムスタンプとともに、アプライアンスで起動した REST API が記載されたテキスト ファイルが含まれています。

データベース監査ロギング

データベース監査ロギングによって、ログイン イベントおよび照会イベントに関する情報を記録できます。これらのイベントは、`/var/lib/mysql/data/audit.log` ファイルに記録されます。デフォルトでは、データベース監査ロギングは無効になっています。データベース監査ロギングを有効にするには、**dbAuditLog.sh** コマンドを使用します。詳細については、監査ロギングの有効化, （41 ページ）を参照してください。

（注） 大量の監査ログが出力された結果、システムにパフォーマンス上の問題が発生した場合、データベース監査ロギングを無効にできます。

監査ロギングの有効化

手順

ステップ 1 直接、または SSH クライアントを使用して、Cisco UCS Director アプライアンスに root でログインします。

ステップ 2 次のコマンドを実行して、システム上で実行されているすべてのサービスを停止します。

```
[root@localhost infra]# pwd
/opt/infra
[root@localhost infra]# ./stopInfraAll.sh
[root@localhost infra]# ./statusInfra.sh
```

ステップ 3 次のコマンドを実行し、監査ロギングを有効にします。

```
[root@localhost infra]# cd bin
[root@localhost bin]# pwd
/opt/infra/bin
[root@localhost bin]# ./dbAuditLog.sh ON
```

ステップ 4 次のコマンドを実行し、サービスを再起動します。

```
[root@localhost infra]# pwd
/opt/infra/bin
[root@localhost infra]#./startInfraAll.sh
```

ステップ 5 次のコマンドを実行し、監査ロギングのステータスを確認します。

```
[root@localhost bin]# ./dbAuditLog.sh STATUS
audit-log= ON
```

データベースの起動に問題があることを示すメッセージが表示された場合は、`audit.log` ファイルを削除するか、または名前を変更してから、Cisco UCS Director データベース サーバを再起動する必要があります。